

1 研修主題

「確かな学力を身に付け、自ら考える児童の育成」
～ 小幡小授業メソッドを活用した指導の工夫を通して ～

2 主題設定の理由

平成 29 年 3 月に公示された新学習指導要領では、「基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と、これらを活用して課題解決を図るために必要な思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学習に取り組む態度の育成」などを目指すことを求めている。また、こうした力の育成のために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、授業改善を行うことを求めている。

本校はこれまで、新学習指導要領が目指す力の育成を達成するために、思考し交流・表現する学習過程を実現する授業スタンダード「小幡小授業メソッド」を作成し、授業改善を図ってきた。その結果、児童の思考の深まりがみられ、「思考する力」での学力の向上がみられた。そして、この小幡小授業メソッドを活用し、平成 29 年度、平成 30 年度と継続的に研修を進めてきた。研修の成果として、「めあて」のもとせ方に焦点をあてた研究を行ったことから、「めあて」と「まとめ」の整合性が図られた。そして、具体的な見通しと課題意識をもった学習を進めることのできる児童の増加が見られた。また「追究する・深める」場面につながる指導法の工夫では、児童同士の学び合いや教師の問い返しなどの対話的な学びにより、思考の広がりや深まりなど、児童の変容も見られた。

昨年度は算数科を中心として実践を行ったことにより、算数科では小幡小授業メソッドを活用した授業が定着してきた。しかし、他教科の実践においては、まだ定着にはいたっておらず、「児童の主体的・対話的で深い学び」につなげる授業の構成には課題が残る。一方、昨年度は、一人1授業において、指導案検討・授業参観・授業研究会を全職員で行ったことにより、職員皆で「いかに良い授業をつくるか」を考えることができたことが、目指す児童像に近づく取組であるだけでなく、職員のスキルアップとしても大きな収穫であった。

そこで本年度は、算数科に限らず様々な教科において、小幡小授業メソッドを活用した授業を、指導案検討・授業参観・授業研究会を全職員で行うことにより、どの学年、どの教科であっても、昨年度までの研究が生かせると考えた。そして、児童が確かな学力を身に付け、自ら考える学びができるように本題材を設定した。

3 研究のねらい

算数科を軸に構築してきた小幡小授業メソッドを活用して、算数科以外の教科でも授業を実践し、児童の学習意欲の向上と基礎・基本の定着を進める。また、児童とつくる「めあて」と「まとめ」の整合性を図り、主体的に取り組む児童の育成を目指すとともに、児童同士の学び合いや教師の問い返しなどの対話的な学びにより、思考の広がりや深まりを促す。このような指導法の工夫を通して、確かな学力を身に付け、自ら考える児童を育成する。

4 研究の見通し

- 前年度までに算数科を主に積み重ねてきた小幡小授業メソッドの実践を、他の教科でも実践することで、児童が取り組みやすい学習の流れが形成され、学習意欲が向上し、基礎・基本が定着するであろう。
- 一人1授業において、全職員で「指導案検討会」「授業参観」「授業研究会」を行い、職員皆で授業をつくりあげること、様々な教科での小幡小授業メソッドの在り方や指導法について理解を深め、各職員が様々な教科で小幡小授業メソッドを活用した授業を積極的に実践することで、確かな学力を身に付け、自ら考える児童を育成できるであろう。

5 目指す児童の姿

- ・ 確かな学力を身に付け、意欲的に学習に取り組む児童
- ・ 学びを生かし、自ら考え課題を解決しようとする児童

6 研修組織



7 研修計画

1 学期	2 学期	3 学期
<ul style="list-style-type: none">・ 今年度の研修の方向性についての確認・ 研修主題、組織、計画等の立案と改善・ 研修に関する資料の検討・ 一人1授業による実践・検証・ 経営訪問（6/27）代表授業者：後日決定・ 情報収集と情報交換	<ul style="list-style-type: none">・ 一人1授業による実践・検証・ 授業訪問（11/14）授業者：全員・ 研修のまとめと準備・ 情報収集と情報交換	<ul style="list-style-type: none">・ 授業実践のまとめ・ 研修収録の作成・ 今年度の反省と次年度への課題の確認